

皆さま方には、公益社団法人日本 WHO 協会に格別のご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

2018年6月18日に開催された理事会・社員総会において選任・承認され、日本 WHO 協会理事長に就任いたしました。關淳一前理事長が8年間にわたり本協会の活動の活性化と組織の透明性の確保にご尽力され、公益社団法人としての社会的な責務を果たし着実な成果を重ねてまいりました。關前理事長が築かれた確固とした基盤をもとに、会員や賛助会員の方々とともに新たな一歩を踏み出していくことに身が引き締まる思いです。

2015年には、国連総会において「持続可能な開発目標 (SDGs)」が提唱されました。保健医療や貧困対策、教育、環境などの分野で、政府だけでなく民間企業や市民社会が協働して、2030年までに「だれひとり取り残さない」社会を創ろうという壮大な試みです。私たちも、2019年2月に大阪で開催されるワン・ワールド・フェスティバルにブースを出し、多くの市民団体とともに SDGs に対する理解が広まるよう積極的に社会に向けて発信していきます。

日本 WHO 協会は、国際連合の専門機関である世界保健機関 (WHO) の行っている活動や情報を多くの人びとに迅速かつ適切に伝えるという使命を担っています。これまでも、WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター) をはじめ、多くの WHO 関係者の方々にはお世話になりました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後は、ファクト・シートをはじめ WHO に関する日本語情報のワンストップ・サービスをめざすとともに、機関誌「目で見ると WHO」をさらに魅力的なものに編集していきたいと考えています。

日本国内で、WHO やグローバルヘルスに関連する病院や大学や研究所、民間企業、NGO/NPO などの市民社会とのネットワークを強化していきます。とくに、WHO 神戸センターや日本国内で幅広い分野にわたり活躍されている WHO 協力センター (WHO Collaborating Centre) との協働のなかで、私たちが多くのことを学ばせていただきたいと考えています。

また、日本 WHO 協会では従来から、WHO インターンに支援を行う制度を通じて、若い世代の育成に注力してきました。今後は、グローバルヘルスに関する研究会を定期的で開催することや、WHO インターン経験者の会合を開催するなど、海外に羽ばたこうとしている若い世代の自主的な活動を積極的にサポートします。

これ以外にも、さまざまなプロジェクトを通じて、世界の人々の健康を守るために地球市民の一員として、WHO をはじめとする国際機関、国、地方自治体、企業、NPO/NGO などと協働しつつ、だれひとり取り残さない「持続可能な開発目標」(SDGs) の目標達成をめざして活動していきます。

今後も、皆さま方のより一層のご理解とご協力のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

23018年12月
公益社団法人 日本 WHO 協会
理事長 中村安秀